

日本人なら、利休に学ぼう

利休以前の茶—日本における喫茶の歴史

8

48

利休の茶、わびの心

構成・文／北見宗幸

無垢な心／さりげない心遣い／思いやる気持ち
頃合いを慮る／受け継ぐ／一念限りの潔さ
もてなしの心／加減を知る

利休を知る

利休の美意識	茶禅一味
利休の創意1	樂茶碗
利休の創意2	茶杓
利休の創意3	竹花入
利休の創意4	見立て
利休の創意5	利休形
利休の創意6	茶室
利休の創意7	飲みまわし

42 40 38 36 34 32 30 28



利休の生涯 Life of Rikyu

茶人・宗易の誕生
宗易時代の茶
宗易、利休を名乗る
千利休関連年表

60 58 56 54

利休をめぐる人々

利休と同時代を生き、
その人生に深く関わった人々

家族
町衆茶人
天下人
利休七哲

68 66 64 63

利休の遺響

後代の人々は利休を
どのように捉えてきたのか

利休の道統
利休の年忌

72 70

監修／筒井絢一

淡交12月号

臨時増刊

今、日本人が学ぶべき人

All about
R i k y u

千 利 休

R



[表紙] 長次郎作 黒樂茶碗 銘「万代屋黒」部分 樂美術館蔵

[表紙デザイン・本文レイアウト] 中井康史・三上照正（キャスト・アンド・ディレクションズ）

私にとつての利休

安藤忠雄 待庵は私にとつて1つの原点

原研哉 「何もないけどすべてがある」を具現化した利休

利休の逸話について／利休百首について

現代に生きる利休

さまざまな姿で、

「利休」が現代によみがえる

文／中井シノブ・鈴木敦子

展覧会 118 ／ 映画 120

テレビドラマ 122 ／ 小説・コミック 124

エッセイ・入門書 126 ／ CM 128

124

89 87 85 84 82 80

利休の逸話に学ぶ

①陣中の茶 大倉源次郎

②水門の石 小林康夫

③行灯の心得 トミタ・ジュン

利休百首に学ぶ

①その道に入らんと思ふ心こそ我身ながらの師匠なりけれ

川名幸夫
②点前には重きを軽く軽きをば重く扱ふ味ひをしがれ

井辻朱美
③茶はさびて心はあつくもてなせよ道員はいつも有合にせよ デービッド・アトキンソン

中田英寿、

茶の湯をたのしむ、茶の湯をたしなむ。

亭主・林屋晴三 客・中田英寿

96

95 93 91

利休トリヴィア

紹鷗と利休の茶の境涯

利休の美意識の象徴・盛阿弥棗

瓢の花人も利休の創意

利休の茶会の数

一度しか使わない茶道具

秀吉の黄金茶室は誰の考案か

利休の好んだ菓子

利休は大男!?

利休の家業とは?

利休の亡くなつた日のこと

利休についての記録

“茶頭”つて?

67 65 59 57 55 42 40 38 36 34 30 28

110 104

くらしの中の利休さん 400年以上経つた今も、日常に残るその名前

京都 104 ／ 堺 106 ／ その他 107

利休の足跡をたどる 各地に残る利休ゆかりの地をめぐる

「色」「紋」
「菓子」 114
110 ／ 裂地
112 ／ 小物
116

113